

春から始めよう！ 畜産農家のハエ対策

春になると気温が上がり、畜舎のまわりで徐々にハエが目立ち始めます。放っておくとすぐに増え、家畜のストレスや乳量・増体の低下、さらには農場間の病原体の運搬につながることもあります。

今のうちに出来る対策を、一つずつ進めていきましょう。

● まずは「発生源」を減らす

ハエが卵を産む場所は、湿ったふん尿・残飼・敷料などです。こまめな除糞と清掃、しっかりとした換気で乾いた環境を保つことが大切です。

また、堆肥を適切に切り返すことで、発酵熱と乾燥により幼虫は死滅します。

● 今飛んでいるハエを減らす

ハエ取りシート、防虫ネットなどの物理的対策は、成虫の捕獲に役立ちます。

飼槽・水槽まわり、堆肥舎まわり、柱・梁などハエが集まりやすい、止まりやすい場所に設置すると、手軽に数を減らせます。

● 薬剤は、幼虫対策を中心に

ハエの成虫は全体の約20%で、

残りの約80%は幼虫・蛹・卵です。成虫対策だけでは不十分なため、発生源にIGR剤（昆虫発育阻害剤）を散布し、幼虫段階で増加を抑えることが最も効果的です。通常は3〜4週間に1回、多い時期は10日に1回が目安です。成虫には毒餌や残留噴霧が有効ですが、耐性防止のため薬剤ローテーションが重要です。

ハエは25〜30℃では卵から成虫まで約10日で育ちます。春は急激に増えるため「早めの一手」がどうしても効果的です。春の対策が梅雨以降の負担を軽くします。「発生源をつくらない」「今飛んでいるハエを捕まえる」「幼虫対策」を組み合わせ、ハエの少ない快適な飼養環境づくりを進めましょう。

